

臨中ネットデータベース(臨中ネットDB)の正確性、意味的な情報保存性を、元の電子カルテデータと比較検証し、その品質を評価する手法を確立する

データベースの品質とは？

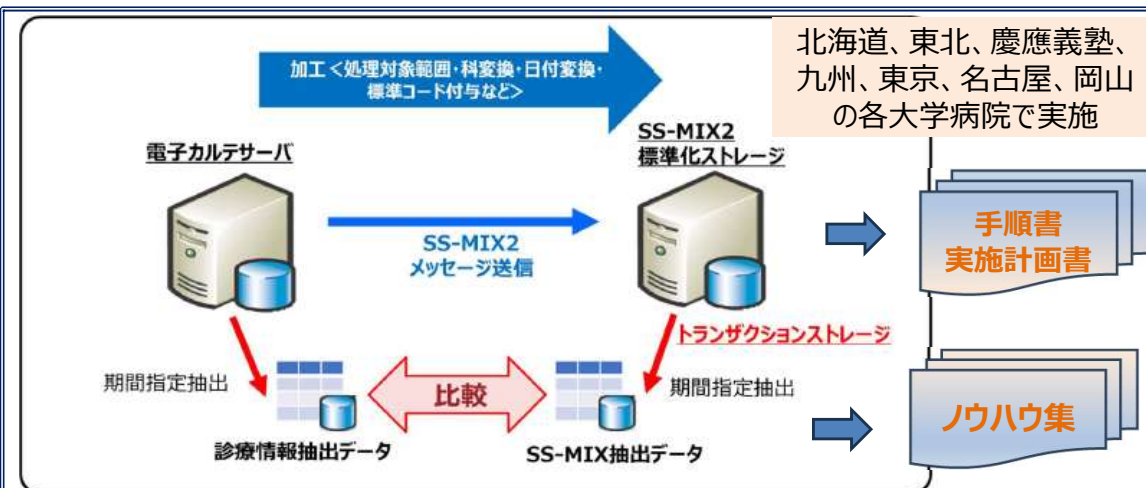
臨中ネットDBから生成されるエビデンスが妥当であることを保証するためには、**臨中ネットDBが現実の状況を正確に反映した品質の高いデータであることが必要**となる。臨中ネットDBの元データは電子カルテであるから、少なくとも臨中ネットDBと電子カルテデータと同一内容であることを比較検証する必要がある。**電子カルテとの比較検証を行い、臨中ネットDBの妥当性を維持すること、利用ケースから見た利用可能性を指標で示すこと**をもって、品質管理・品質評価とする。

SWG4の実績と成果

臨中ネット品質管理マトリクス

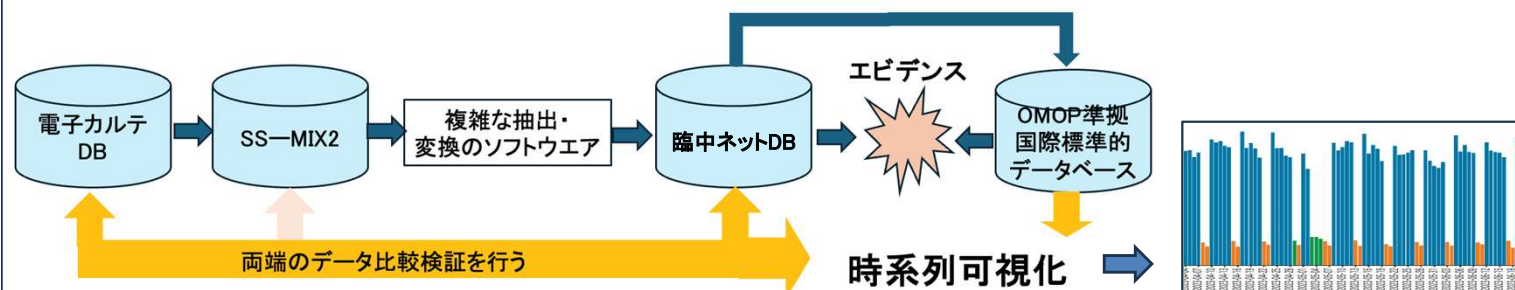
	工程管理	品質検証	品質改善
プレゼンテーション層		統合DS分類	
データ結合層	品質管理プロセス	研究ごとに設定される付随情報	研究者による研究計画のアップデート
匿名化層			
データベース層【出力層】			
構造化データ層【中間層】	品質評価指標	チェックリスト	施設ごとの対応
診療記録層【入力層】		導入時テスト、ガイドライン	システムベンダー(富士通/NEC/IBM/...)施設ごとの運用

- 品質管理マトリクスの提案と品質管理指標の提案
- 「品質管理方針」の文書作成
- 臨中ネットのデータ提供プロセスに関するチェックリストの項目案の作成



- SS-MIX2標準化ストレージ・バリデーションツールの開発と導入
- 施設毎に品質検証を実施、品質チェックリストの整備
- 臨中ネットにおけるバリデーションに関する用語の定義の整理

- 臨中ネットの品質管理作業の知見やノウハウを文書で公表



- 臨中ネットDBのバリデーション手法として、元データとの両端比較検証と、時系列分布の可視化、による検証を行う。